



**栗野英武さんが
茨城県民間自治功労者表彰を受賞**



栗野英武さん(下妻乙・80歳)が、茨城県市長会主催の茨城県民間自治功労者表彰を受賞しました。

栗野さんは、平成21年7月から令和4年7月までの13年間、保護司として地域に貢献されました。研修に積極的に参加し、指導力や人間性を向上させることに努め、保護観察者への指導に力を注ぎました。また、平成28年4月から令和3年3月まで下妻市保護司会の会長、さらに茨城県西地区保護司会の副会長として、更生保護事業の発展にも寄与しています。地域住民の要望をまとめ、市と住民の架け橋としても活動してきました。

栗野さんは受賞に際し、「このような賞をいただき、ありがとうございます」と述べ、さらに最近では「下妻に訪れた方々に、この街の素晴らしさを伝え、良い反応があるとうれしくなります」と話していました。このたびの受賞、おめでとうございます。
 〇 秘書課

**栗野寿広さんが農林水産大臣賞を受賞
全国果樹技術・経営コンクール**

2月20日、東京・千代田区の法曹会館で行われた第26回全国果樹技術・経営コンクールにおいて、下妻市の梨生産者・栗野寿広さんが農林水産大臣賞を受賞しました。これを受け、2月21日に栗野さんは市役所で菊池市長を表敬訪問しました。

栗野さんは茨城県最大級の4.1haの梨園を経営し、下妻甘熟梨のブランド力向上に貢献しています。また、ジョイント栽培を導入し、持続可能な大規模経営を展開。下妻の梨産地で初めての常時雇用を実現し、新規就農者の育成にも力を入れています。

受賞の報告で栗野さんは、受賞の喜びを語るとともに、下妻の梨産地の発展に向けた展望を述べました。今後も地域農業者の模範としての取り組みが期待されます。

〇 農業政策課



**鈴木秀史さんがスマート農業で
「飼料用米 多収日本一」コンテスト受賞**



2月5日、鈴木秀史さんが下妻市役所を訪れ、市長に令和6年度「飼料用米多収日本一」コンテストでの茨城県農業再生協議会長賞受賞を報告しました。

鈴木さんは、農業未経験でしたが、父の体調不良をきっかけに農業の道を選びました。開始当初は農業機械の操作に苦勞し、作業の労力が多くかかってしまっていたことから、2022年にロボット田植え機を導入し、作業の効率化を図ってきました。

現在、鈴木さんは限られた労力の中で、収量性を維持しながら、規模拡大に対応するため、ロボット田植え機のほか、生育診断システムの情報を参考にドローン追肥を行うなど、積極的にスマート農業機械の導入を行っています。

また、大宝地区生産組合の一員として、麦・そばの共同事業にも積極的に取り組んでおり、地域農業の発展に貢献しています。鈴木さんの今後のさらなる活躍が期待されます。

〇 農業政策課

「筑西・下妻広域連携バス」の愛称

「ペアリン号」に決定しました！



2月28日、ピアsparkしもつまにて、高道祖小学校の6年生約30名を対象とした農産物加工施設の工場見学が行われました。このプログラムは地産地消や地域活性化の重要性を子どもたちに伝えるために、当施設の指定管理者である有限会社スズラン・ロードハウスが企画したものです。

当日は、農産物加工施設を見学した後、SDGs(持続可能な開発目標)についての取り組みや食品加工、ふるさと納税の返礼品に関する講習が行われました。子どもたちは地域の農業振興や食品ロス解消の取り組みを学び、「普段知らなかったことを知ることができて良かったです」「農家の方が作った農産物やその加工品をふるさと納税の返礼品にすることで、下妻市に還元されるのが嬉しいです」と感想を述べ、地域とのつながりの大切さを実感する貴重な機会となりました。

〇 農業政策課

**高道祖小学校児童が
ピアsparkしもつまの工場見学**



障害者理解促進事業講演会

強度行動障害の理解と対応



3月2日、障害者理解促進事業として「強度行動障害の理解と対応」に関する講演会が開催され、50名の参加者がありました。講師には、星槎大学副学長であり、認定NPO法人日本ポーターズ協会副会長の西永堅氏をお招きし、強度行動障害の基本的な理解とその対応方法についてお話いただきました。

強度行動障害とは、本人の健康や周囲の生活に影響を与える行動が頻発する状態を指し、自傷や他害、物を壊す行為などが含まれます。これらの行動は、ストレスや不安、コミュニケーションの困難さから引き起こされることが多く、適切な理解と対応が求められるものです。

参加者は、障害を持つ方の家族や支援機関の方々と、実践的な情報を得ることで理解を深め、今後の支援に活かす貴重な機会となりました。

〇 福祉課